

平成24年度
福島県における野生鳥獣の生息状況等に関する調査結果
(概 要)

平成25年7月

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

平成24年度福島県における野生鳥獣の生息状況等に関する調査業務 概要

調査の目的と概要

捕獲圧の減少や人為活動の停滞が生じている地域における鳥獣保護管理に資するため、福島県の警戒区域※およびその周辺地域に生息する野生鳥獣(主にイノシシ及びニホンザル)を対象に、その生息状況及び生活環境への影響等の調査・分析を実施するとともに、今後の住民の帰還および人為活動の再開に向けた課題を整理。

(※平成24年7月時点の区域)

警戒区域内での現地調査

調査方法

調査対象地域：警戒区域内に設定した調査ルート(全長各10km、右図参照)

調査時期：平成24年11月および平成25年1月

カメラ トラップ 調査

- 自動撮影カメラを設置し、撮影された画像をもとに種を同定。
- 5ルート(右図1～5)を対象。各ルートについて約1km間隔で計10個のカメラを設置。

ルート センサス 調査

- 日中及び夜間に対象ルートを車両によって低速で移動し、生体を探索。
- 4ルート(右図1～4)を対象。

ライト センサス 調査

- 車両によって低速で移動しつつ両側を目視し、糞などの痕跡が確認された際には可能な限り種を同定し、位置情報等を記録。
- 4ルート(右図1～4)を対象。



警戒区域の概念図
(平成24年7月31日)

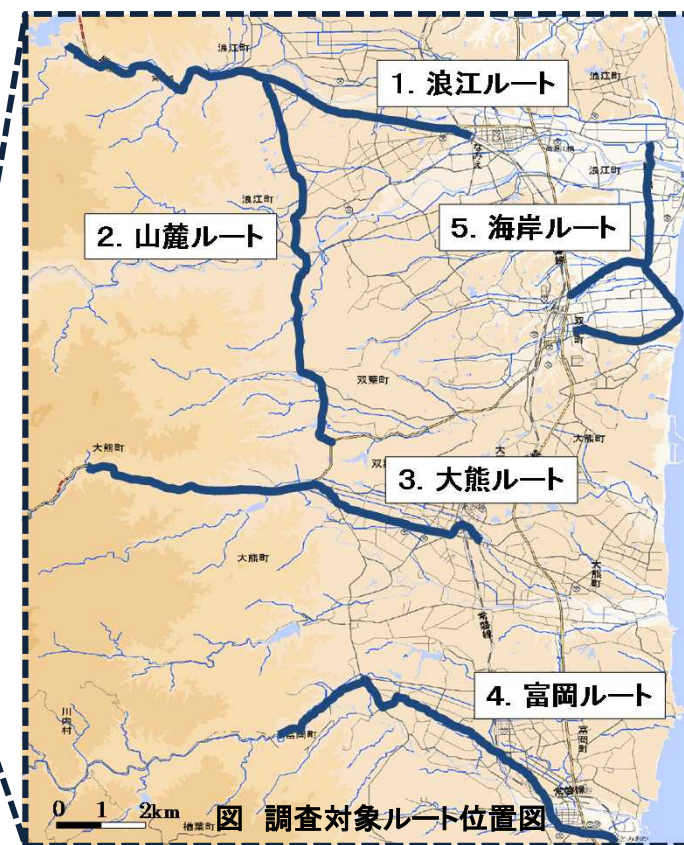


図 調査対象ルート位置図

現地調査結果

カメラトラップ調査における鳥獣の出現頻度

11月調査

番号	ルート名	キツネ	タヌキ	イヌ	アライグマ	テン	イタチ	アナグマ	ハクビシン	イエネコ	イノシシ
1	浪江	0	5	0	0	1	0	0	4	3	2
2	山麓	1	3	0	0	1	0	0	3	2	0
3	大熊	1	7	0	2	3	0	0	5	0	0
4	富岡	2	6	2	1	0	0	0	2	7	1
5	海岸	1	4	0	0	0	1	0	0	3	0
合計		5	25	2	3	5	1	0	14	15	3
出現頻度(%)		10.0	50.0	4.0	6.0	10.0	2.0	0.0	28.0	30.0	6.0

1月調査

番号	ルート名	キツネ	タヌキ	イヌ	アライグマ	テン	イタチ	アナグマ	ハクビシン	イエネコ	イノシシ
1	浪江	2	5	1	3	3	0	0	1	4	1
2	山麓	6	6	0	0	2	0	0	0	3	1
3	大熊	3	5	1	1	2	1	0	0	2	3
4	富岡	1	6	1	1	2	1	1	0	6	1
5	海岸	1	4	0	0	0	0	0	0	2	2
合計		13	26	3	5	9	2	1	1	17	8
出現頻度(%)		26.0	52.0	6.0	10.0	18.0	4.0	2.0	2.0	34.0	16.0

ルートセンサス調査における鳥獣の生息確認回数

11月調査

番号	ルート名	確認回数												合計
		ニホンジネズミ	アズマモグラ	ニホンザル	キツネ	タヌキ	イヌ	アライグマ	テン	イタチ	ハクビシン	イエネコ	イノシシ	
1	浪江	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	2	8
2	山麓	0	0	9	1	7	0	2	1	5	0	0	1	26
3	大熊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
4	富岡	0	0	0	1	8	2	0	3	1	0	1	0	16
合計		0	0	9	2	20	2	2	5	6	0	0	5	51

1月調査

番号	ルート名	確認回数												合計
		ニホンジネズミ	アズマモグラ	ニホンザル	キツネ	タヌキ	イヌ	アライグマ	テン	イタチ	ハクビシン	イエネコ	イノシシ	
1	浪江	0	0	7	2	18	7	8	0	0	0	3	5	51
2	山麓	1	0	6	0	13	8	3	1	0	1	1	15	52
3	大熊	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	7	13
4	富岡	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	7
合計		1	1	13	2	33	15	11	2	0	1	5	32	123

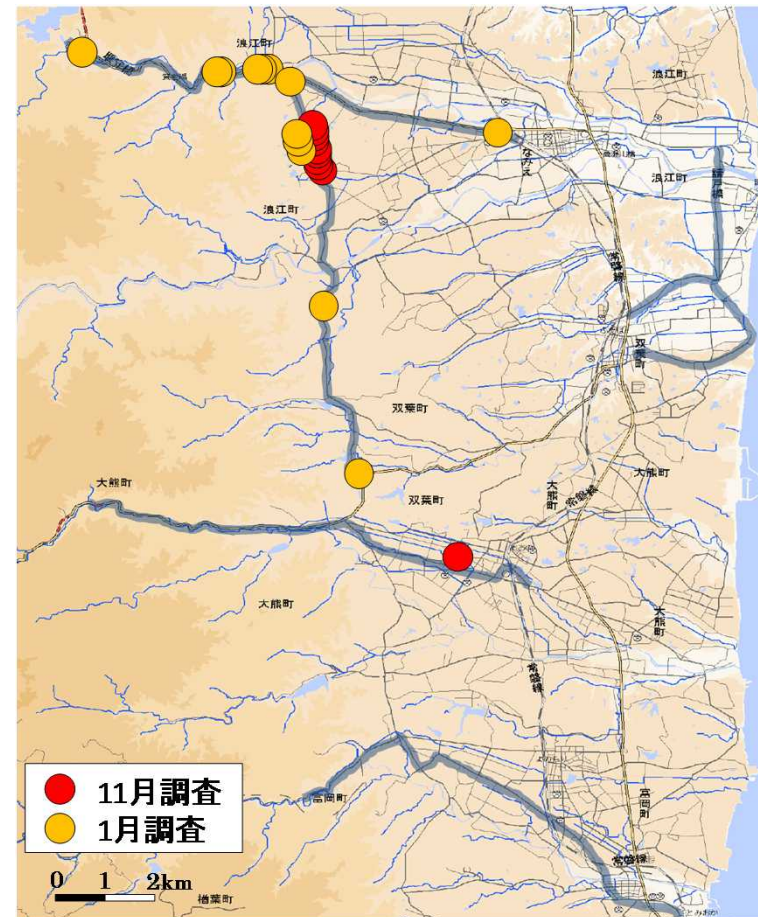
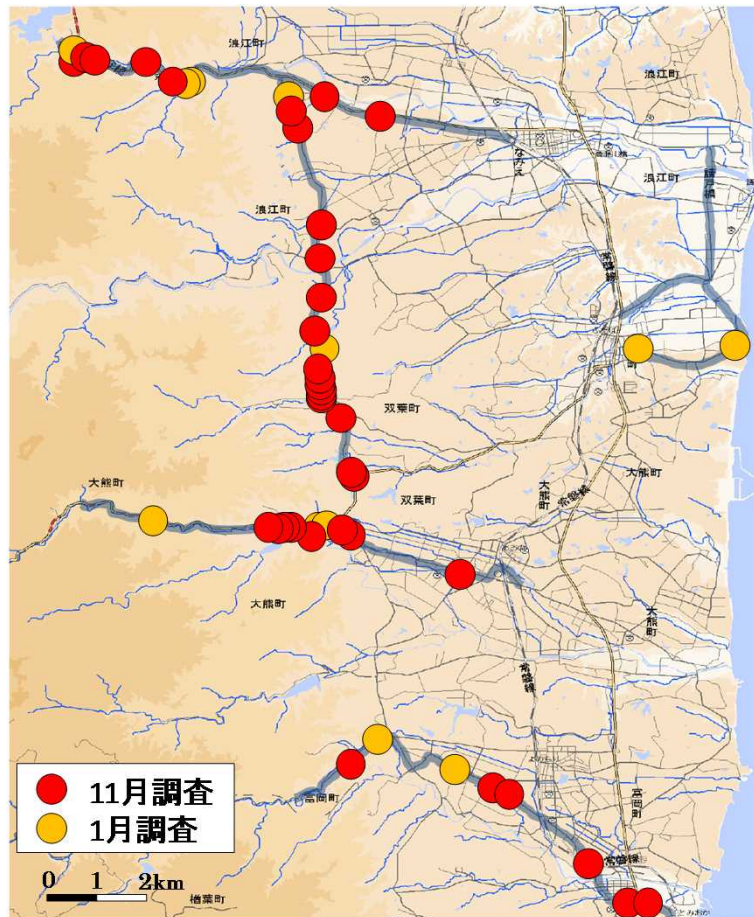
ライトセンサス調査における鳥獣の痕跡等の確認回数

11月および1月調査の合計

番号	調査地	確認(目撃)回数			
		タヌキ	イタチ	ネズミ類	フクロウ
1	浪江	1	0	0	0
2	山麓	0	1	0	2
3	大熊	1	0	1	0
4	富岡	1	0	0	0
合計		3	1	1	2

注) 鳥獣の出現頻度は必ずしも生息密度を反映するものではない。

現地調査結果



イノシシ(左)とニホンザル(右)の生息確認地点

- イノシシは警戒区域のほぼ全域で確認された。
- ニホンザルの確認地点は山麓部に集中し、海岸付近では確認されなかった。
- 原発事故前との比較は出来ないが、市街地でも確認されたことから、両種とも出現範囲が広がっている可能性がある。

警戒区域及びその周辺における鳥獣保護管理に関するヒアリング調査

- 原発事故後の鳥獣保護管理の実施状況の変化についての情報を得るために、福島県内の地方自治体における担当部局および猟友会に対して、野生鳥獣（イノシシ、ニホンザル等）の生息状況、被害状況、捕獲の状況等についてヒアリング調査を実施した。
- 警戒区域解除後の住民帰還に向けて考えられる対策等についての意見を得ることを目的として、各分野の専門家に対してヒアリング調査を実施した。

ヒアリング調査結果

イノシシ

項目	概要
原発事故前の生息状況	警戒区域および周辺地域では、原発事故前から生息していたが、生息域は山麓部が中心であり、平野部や海岸部での出没は稀であった。
原発事故前の被害状況	警戒区域および周辺地域で、農業被害が確認され始めたのは、10年ほど前からであった。
現在の生息状況	現時点では海岸部も含め警戒区域の広い範囲で生息していることが確認され、生息数も増加していると考えられた。
現在の被害状況	警戒区域では、畦の破壊や農地の掘り起こしなど、農地に対する被害は非常に多い。庭を掘り起こすなどの民家の敷地内で被害も生じていた。
現在の捕獲状況	警戒区域を含む相双地域では原発事故後に捕獲数が激減した。相双・いわき地域以外の福島県各地域では、原発事故後もそれ前の捕獲数水準をほぼ維持していた。警戒区域におけるイノシシの捕獲は、原発事故後には一部を除いて実施されていなかった。警戒区域外の多くの市町村では捕獲個体への報奨金の支払いなどの補助を実施し捕獲数の維持に努めていた。
今後求められる対策	住民の帰還前には様々な対策によって震災前の生息状況に戻すことが望ましい。住民帰還後は、農地の除草などが進むことに伴って、イノシシの生息に適する環境が減少し、平野部でのイノシシの生息数は低下すると考えられる。山麓部は原発事故前から被害が見られていた地域であり、住民帰還後も物理的防除等による対策が必要と考えられる。

ニホンザル

項目	概要
原発事故前の生息状況	警戒区域では、多くの地域で原発事故前に群れの定着が確認されていなかった。原発事故前には山麓部を中心として生息しており、平野部や海岸部での出没はほとんど見られなかった。
原発事故前の被害状況	警戒区域及び周辺地域の山麓部の農地において被害が見られていた。
現在の生息状況	警戒区域及び周辺地域の山麓部を中心に広範囲で生息が確認されていた。
現在の被害状況	警戒区域及び周辺地域では、一部の自家消費用の農作物に対する被害が生じていた。家屋への侵入事例は無いが、屋根やベランダに上がるなどの生活環境への被害が生じていた。また、人を警戒しなくなっており、人が近くにいても逃げなくなっていた。
現在の捕獲状況	警戒区域における捕獲は、原発事故後には一部を除いて実施されていない。
今後求められる対策	ニホンザルの特性として個体数が急増することは考えにくいだが、群れの行動範囲の変化による被害地域の拡大は既に生じていると考えられる。今後の除染などによる生息環境の変化や、住民の帰還等によって、ニホンザルの行動にも変化が生じると予想される。住民帰還前の時点で生息状況を把握し、対応することが求められる。

まとめ

今後の住民帰還までの過程の中で、以下のような対策が考えられる。

① 生息環境管理の実施

除染等に伴う農地および集落の除草等によって、野生鳥獣の生息しにくい環境を創出する。

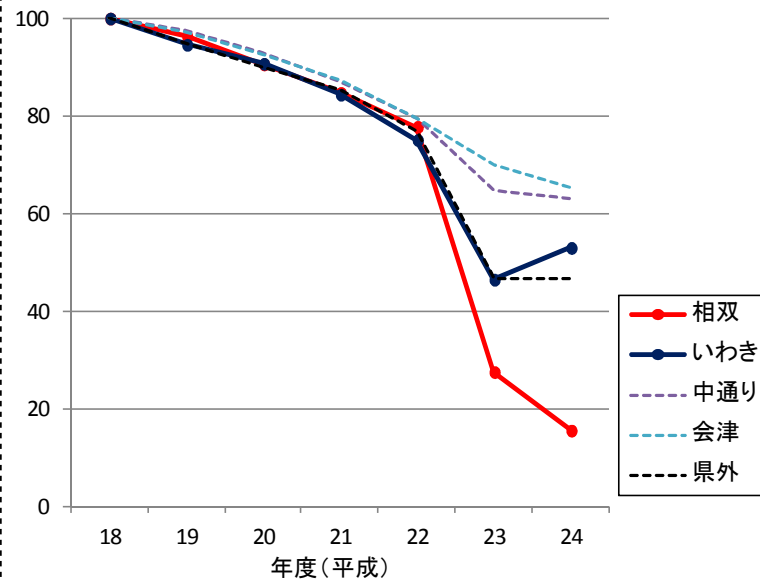
② 住民の帰還に伴う野生鳥獣の追い払い等の実施

住民の帰還前に、集落周辺で遭遇した野生鳥獣に対する追い払いを実施し、野生鳥獣の人への警戒心を高める。

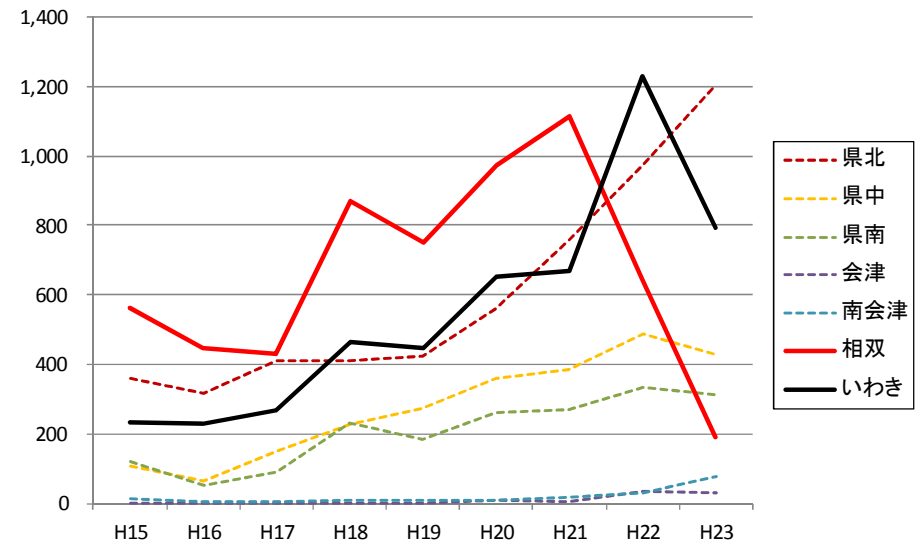
③ 省力的で効果的な捕獲体制の構築

警戒区域内の捕獲は現在ほとんど行われておらず、放射線量が高いため通常の手法による捕獲の実施が困難であり、狩猟者の減少によって担い手の確保も困難な状況である。こうした問題を解決するため、省力的かつ効果的な捕獲体制を構築し、被害を及ぼす鳥獣の生息数削減を図る必要がある。

参考資料



福島県における平成18年度以降の第一種銃猟免許による狩猟登録者数の推移 (平成18年度を100とした数値)



平成15年度以降の福島県における地域毎のイノシシの捕獲数

- 狩猟者人口は継続的な減少傾向にあるが、原発事故後の相双地域 (警戒区域を含む) で特に顕著であった。
(参考: 相双地域の狩猟登録者数 平成22年 777人→平成24年139人)
- 相双・いわき地域のイノシシ捕獲数は原発事故後に減少していたが、福島県のその他の地域ではそれほど顕著な減少は見られなかった。

参考資料（写真）



カメラトラップ調査において撮影された
イノシシ



カメラトラップ調査において撮影された
キツネ



カメラトラップ調査において撮影された
タヌキ



カメラトラップ調査において撮影された
テン



カメラトラップ調査において撮影された
ハクビシン



カメラトラップ調査において撮影された
アライグマ

参考資料（写真）



現地調査実施時に確認されたニホンザル
によるカキ果実への食痕



ルートセンサス調査において確認された
ニホンザルの糞



ルートセンサス調査において確認された
イノシシの掘り起こし跡



ルートセンサス調査において確認された
アライグマの足跡



現地調査実施時に確認されたイノシシ
の群れ